

## 樹木の移植



毎年5月に雪が積もったように白い花を咲かせ、住民に親しまれているヒツバタゴ、別名「なんじゃもんじゃ」。40数年前、明治神宮外苑にあった木で、アルビス緑丘の団地で苗木から育てられた樹です。たくさんの人の想いがこもった樹を移植によって保全し次世代へと伝えて生きます。



### 「ヒツバタゴ」移植作業

樹高6m 幹周1.3m 枝張6m 切り土地盤であったため根は浅く地表面を這い、花壇や配管周りの通気性と腐植に富んだ方向へ太い根が伸びていた。掘り取りは太根をたぐりがらの追い掘り。根鉢は直径4m、高1mの皿型

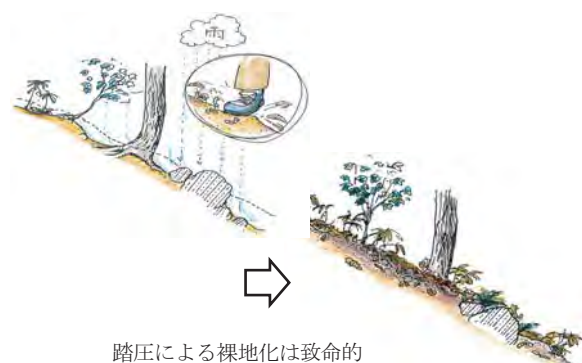


保存できなかった樹木はベンチにリサイクル加工

## ヒメホタルの保全



アルビス緑丘では、ヒメボタルに代表される貴重生物の生息環境の保護にも配慮しています。ヒメボタルの生息する区域の保存と、餌である陸生貝が生息できる湿潤な地面が生まれる環境をつくりました。



既設の通路や駐車場をセットバックさせ草地部分を拡幅した。照明もヒメボタルに影響の少ない波長の光源を使用。